

吸血鬼の解放

JACK2434

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

あらすじ

この世界は異質の存在がいる

吸血鬼、悪魔など…

その存在は人間に嫌われ、捕まり次第処刑されていた…

目次

1話	1
1 脱出	1

1話 1 脱出 1

今日、とある人物？が処刑される

名前はヴァイスというらしい

一部の人間以外姿すら見たことがない

何故処刑されるのか

それは：ヴァイスが吸血鬼というおぞましい存在
だったからだ

兵士A「ヴァイス、出てこい」

ヴァイス「：（テクテク）」

牢屋からは6、7歳の小さな女の子が出てきた

兵士B「お前みたいな奴は処刑されるより俺らに殺されてしまえ！」
と、怒鳴って殴りつけた

ヴァイス「あぐっ！」

吸血鬼なら、人間よりある程度力は上のはずだ

しかし、やり返さない：

それが何故なのかは兵士しか知らない

兵士B「へへっ、いい気味だ…うぐっ！」

その時兵士Bの首が飛んだ

兵士A「なっ! どうし…がっ！」

兵士Aの首も飛んだ

ヴァイス「ひっ!…誰？」

ヴァイスの前には銀色の髪がちらりと見える赤いフードの付きの服を着た若く見える男性がいた…

☒? 「お前が吸血鬼か、解放してやる。お前の武器もある」

ヴァイス「どうして私の光線銃が…お兄さんの名前は？」

??? 「後で言う、他の兵士が来た! 隠れろ! (小声)」

ヴァイス「う、うん! (初めて正義の味方を見たや…かつこいいな…)」

兵士C「おい、ヴァイスはまだ連れて来れないのか…な、なんだこれ…首が飛んでる!…すぐ連絡しなければ!」

と、叫んで走って行った

??? 「危なかった…俺の名前はジンだ、人間からはあくまという種類に分類されて嫌われている…」

ヴァイス「私はヴァイス！貴方も人間から嫌われてるの？」

ジン「ああ、そうだ。お前を助けたのは理由がある…これはここから逃げ出してから話そう。」

ヴァイス「それじゃ仲間だね！なら、早速…（カプツ）」

ジン「俺を利用しようとか考えてるのかもしれないが俺は人間じゃない、そう簡単に利用できないぞ」

ヴァイス「でも、ジンの血美味しいね！もつと頂戴！」

ジン「そうか、でも、今後一切飲まさない。他のものから血を奪う…俺も血を飲むからな」

ヴァイス「仲間！仲間！ジン大好き！」

ヴァイスはジンに抱きついた

ジン「そうかそうか、ありがとな…さあ、脱出するぞ」

ヴァイス「うん！光線銃の力見るがいい！」

ジン「待って待って、ここは敵地だぞ。音のする武器は使うな。音がなく確実に殺せるよにしる。例えば首を折ったりだ…」

ヴァイスは深刻そうな顔をした

ヴァイス「…わかった、できるよ。」

と、言つてニコツと笑つた

ジン「そうか、期待してるよ」

ジンとヴァイスは走り出した

「絶対脱出する！」

ここからジンとヴァイスの壮大な物語が始まっていく…